

【奨励賞】

団体名	21世紀型資質・能力を育む「舞鶴ビジョン」
活動の内容（概要）	舞鶴小・中学校9年間の一貫した教育課程に、体験型教育プログラム「舞鶴Job study」と「防災教育」を位置付け、キャリア教育担当教員とキャリア教育コーディネーターが連携し、行政、地域、NPO法人等の協力を得ながら、児童生徒の「やり抜く力」、「生き抜く力」を育てている。

受賞理由

- ・体験型教育プログラムと防災教育を核に、地域連携協働と小中9年間の学びを推進するビジョンが明確である。明確な目標（ビジョン）やプロセスの共有、キャリア教育コーディネーターなどの専門家を入れた16団体の連携等が評価できる。
- ・コミュニティ・スクールが地域協働と社会に開かれた教育課程につながることを意識している点が高く評価できる。
- ・小中連携教育校の教育活動を町ぐるみで支えている。学校側にとっては、これからの教育の方向性を具現化する先進的な手立てを取り入れながら、児童生徒のキャリア発達を促す計画に基づく実践がなされている。また、地域・企業側にとっては、都市部の課題に対する解決策を模索する上で、学校と連携した取組となっている。
- ・地域の体験型教育プログラムと防災教育を柱にしたキャリア教育は、そのねらいもシンプルで、活動も継続性があり、方向性を連携各団体で明確に共有しながら推進できている。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

福岡市立舞鶴小・中学校、福岡市教育委員会、福岡県教育委員会、福岡市発達教育センター、福岡市市民局

【行政や地域・社会、産業界等】

福岡市役所、福岡市中央区地域支援課、福岡市市民局防災課、日本赤十字（青少年赤十字）、福岡市立舞鶴小・中学校PTA、舞鶴3地区自治会、NPO法人金印倶楽部、NPO法人FootMark、NPO法人日本キャリア開発協会、キャリア教育コーディネーター、福岡県教育委員会講師登録メンタルトレーナー、株式会社Campanula、一般社団法人福岡県中小企業家同友会、一般社団法人公益資本主義推進協議会、一般社団法人生活哲学学会の会員企業26社

活動開始の経緯

【活動開始時期】平成26年～ 【継続年数】4年

福岡市立舞鶴小・中学校は、140年の伝統がある旧大名・簀子・舞鶴地区の3小学校と1中学校が統合し、4年目を迎える施設一体型小中連携教育校である。各旧小学校は地域コミュニティとして親しまれ、地場の企業や自治体の子供の育成に積極的に参画してきた歴史がある。しかし、都市化における統廃合に伴い、これまでの活動が断絶の危機に直面するに当たり、新設校においてキャリア教育を中核に据え、9年間の一貫した教育計画に基づく地域参画を促すことで、都市部にある学校としてさらに維持、発展でき、モデルケースになるのではないかと考え、取組が始まった。

「協力性」についての具体的な取組, 工夫している点など

舞鶴小・中学校ではキャリア教育を2つの教育活動(以下「舞鶴ビジョン」)として、教育課程に位置付け、地域や企業の協力を得ながら、相互が継続的、互恵的な活動となるようキャリア教育コーディネーターを中心に連携して取り組んでいる。

○舞鶴ビジョン①体験型教育プログラム「舞鶴 Job study」

経済が盛んな校区の地域人材を活用し、小・中・高学年のキャリア教育担当教諭とキャリア教育コーディネーターが連携し、小・中学校・産業界・NPO・教育カウンセラーがスクラムを組みながら、子供自ら「自分で考え行動する」体験型教育プログラム「Job study」を開発し、「やり抜く力」を育む。



＜「舞鶴 job study」プログラミングの職業体験の様子＞

○舞鶴ビジョン②「防災教育」

警固断層が横たわり、海に面した本校において防災教育は不可欠であり、児童生徒が、自分なりの考えを持ち仲間と共に取り組む力、予想不可能な局面や状況下で自助・共助する力を育成することを目指し、行政・地域・青年赤十字と連携し、防災教育プログラムの推進を図り、児童生徒の自主性や社会の役割を意識した「生き抜く力」を育む。

「継続性」についての具体的な取組, 工夫している点など

2つの教育活動それぞれに、キャリア教育コーディネーターや行政、教育委員会と連携しながら、以下のような Readiness、Plan、Do、Check、Action の段階を継続的、計画的に実施している。

○舞鶴ビジョン①体験型教育プログラム「舞鶴 Job study」

Readiness：各種調査から見た児童生徒の実態の把握、行政のキャリア教育の方向性の明確化、

Plan：身につけたい資質・能力のすりあわせ、学校と参加企業のスケジュールの調整

Do：主体的・対話的な深い学びに支えられた職業体験の準備・実施

Check：職業体験後も日常的にキャリア構築が行える学習ノートの開発、学校は事前事後アンケート、企業のフォロー研修の実施

Action：次年度の教育課程への位置づけとスケジュール調整

○舞鶴ビジョン②「防災教育」

Readiness：災害に対する児童生徒の実態の把握、行政の施策等の方向性の共有化

Plan：身につけたい資質・能力のすりあわせ、学校と行政のスケジュールの調整

Do：仲間と共に取り組む力、自助・共助する力を育む防災教育の準備・実施

Check：訓練後も日常的に防災意識が構築できる教育活動の工夫、事前事後アンケートの集約と工夫改善

Action：次年度の教育課程への位置づけとスケジュール調整

「実践性」についての具体的な取組, 工夫している点など

○舞鶴ビジョン①体験型教育プログラム「舞鶴 Job study」

企業による仕事の説明と体験指導の実施により、企業も社員研修が実施できる等、学校と企業に互恵性がもたらされている。さらに子供たちも多様なカリキュラムの選択や、実施可能な職業のバリエーションを幅広くもつことが可能となっている。

○舞鶴ビジョン②「防災教育」

本校独自の新たな防災教育「4つの教育活動」

- ・防災の知識を豊かにし災害に備える学習
(防災教育プログラムの推進、機能的な防災組織の構築)
- ・防災の力を体感する体験活動の充実
(日本赤十字加盟式、小中合同避難訓練の実施)
- ・防災意識の日常化を目指した教育活動
(小中合同自然教室、生徒会による小中合同集会の実施等)
- ・地域や各関係機関と連携した教育活動 (中学校防災講演会)



<「防災教育」中学校防災講演会の様子>

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

○舞鶴ビジョン①体験型教育プログラム「舞鶴 Job study」

- ・教育成果を「可視化」するため、全児童生徒対象の事前・事後意識調査、実践の記録画像や成果物を、学校だより、HP等で保護者・地域・企業に対して発信した。
- ・市教育委員会の報告書、小中校長会において取り組みを広め、キャリア教育と学力における資質・能力の関係と重要性を提案した。
- ・キャリア教育受入れ企業は可能な限り校区近隣の地域企業とし、地域密着型のキャリア教育として普及活動を推進している。
- ・地域参観会や保護者向けの発表会を開催し、保護者や地域の方だけではなく、県内の教員、PTA、NPO 団体、企業など多くの方々に取組を見ていただき、意見交換会を実施した。

○舞鶴ビジョン②「防災教育」

- ・教育成果を「可視化」するため、全児童生徒対象の事前・事後意識調査、実践の記録画像や成果物を、学校だより、HP等で保護者・地域・行政に対して発信した。
- ・行政や自治協議会でもチラシや便りを作成し、連携強化と啓発を図った。
- ・中学校校長会九州大会において、九州地区校長会 200 名に舞鶴小・中学校の防災教育の取組を報告し、意見交換会を実施した。

学校現場の評価・感想・コメント

- ・これまで学校で行っていた職業人講話に職業体験を加えた、大変ユニークな内容でした。短時間で複数の仕事に触れ、職業人から直接話を聞けることで、子供自らが課題を解決できる姿が見えました。
- ・キャリア教育コーディネーターが学校と地域企業をつないでくれたことで、学校現場にとっては事前準備等の負担を減らすこととなり、キャリア教育実践が進むことにつながりました。
- ・子供たちにとっても、地域を見直す機会となり、教科書では学べない実体験から発せられる先生の言葉は、引きつけられると同時にとても重みを感じるものでした。

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

- ・開かれた学校の中で自社のお仕事を伝える中で、子供たちの仕事に対する真剣な想いを感じ取ることができました。そして弊社にとりましても参加した社員が子供たちに自分の仕事を伝えることが出来たことは本人の成長につながります。これから地域を守っていく子供たちにとって Job study を繰り返していくことが必要なことだと強く感じました。
- ・中学生防災力アップ事業では、「考え抜く力」「前に踏み出す力」「チームで働く力」というキャリア教育の資質・能力が育ち、「地域を守る行動をしたい」との生徒の感想につながりました。